

令和7年 シラバス

第3学年

普通科

研志コース (キャリア・看護・保育)

鳥取城北高等学校

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	キャリア	コース
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使える	語句・語彙・文章の構成や展開について理解し、得られた知識を活用できる。また、文章に含まれている情報の扱い方について理解を深め、得られた知識を活用できる。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において、多面的・多角的な視点から評価することができる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。	
B できる	実社会で必要な国語の知識や技能への関心を持つことができる。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つことができる。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。	
C する	実社会において必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。	
評価方法	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 漢字テスト	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	1 自己を見つめて 2 思考を深める 3 社会に向かって
2 学 期	4 視点を変えて 5 問いを深めて書く 6 現代を考える 7 未来に目を向けて
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』
大修館書店『新編 論理国語 学習ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	保育	コース
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使える	語句・語彙・文章の構成や展開について理解し、得られた知識を活用できる。また、文章に含まれている情報の扱い方について理解を深め、得られた知識を活用できる。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において、多面的・多角的な視点から評価することができる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。	
B できる	実社会で必要な国語の知識や技能への関心を持つことができる。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つことができる。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。	
C する	実社会において必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。	
評価方法	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 漢字テスト	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	1 自己を見つめて 2 思考を深める 3 社会に向かって
2 学 期	4 視点を変えて 5 問いを深めて書く 6 現代を考える 7 未来に目を向けて
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』
大修館書店『新編 論理国語 学習ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	看護	コース
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使える	語句・語彙・文章の構成や展開について理解し、得られた知識を活用できる。また、文章に含まれている情報の扱い方について理解を深め、得られた知識を活用できる。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において、多面的・多角的な視点から評価することができる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。	
B できる	実社会で必要な国語の知識や技能への関心を持つことができる。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つことができる。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。	
C する	実社会において必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。	
評価方法	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 漢字テスト	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	1 自己を見つめて 2 思考を深める 3 社会に向かって
2 学 期	4 視点を変えて 5 問いを深めて書く 6 現代を考える 7 未来に目を向けて
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』
大修館書店『新編 論理国語 学習ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	総合数学	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 数学的な考え方を理解し、様々な事象に応用することが出来る。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	問題に直面したとき、数学的な考え方を使って論理的に思考することが出来る。
	A わかる 応用問題に対して、適切な公式を用いて論理的に解くことが出来る。	1つ1つの考え方や、数学的な思考を論理的に、適切に順序立てて他者に説明することが出来る。	様々な問題に取り組み、他者と協力しながら解き進めることが出来る。
	B できる 標準的な問題に対して、適切な公式、考え方を用いて解くことが出来る。	論理的に順序立てた回答を作成することが出来る。	できないところは解答解説を参考にしたり、他者に聞くなどして試行錯誤しながら解くことが出来る。
	C する 類題の解答解説を参考にしながら解くことが出来る。	問題文の意味を理解し、解答解説を参考にしながら、回答を作成することが出来る。	あたえられた課題に取り組み、期限内に提出物を提出することが出来る。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	SPI対策 就職試験対策
2 学期	SPI対策 就職試験対策
3 学期	就職試験対策

何で学ぶか(教材)

実教出版『高校生の一般常識+SPI問題集』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	総合数学	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	数学的な考え方を理解し、様々な事象に応用することが出来る。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	問題に直面したとき、数学的な考え方を使って論理的に思考することが出来る。
	A わかる	応用問題に対して、適切な公式を用いて論理的に解くことが出来る。	1つ1つの考え方や、数学的な思考を論理的に、適切に順序立てて他者に説明することが出来る。	様々な問題に取り組み、他者と協力しながら解き進めることが出来る。
	B できる	標準的な問題に対して、適切な公式、考え方をを用いて解くことが出来る。	論理的に順序立てた回答を作成することが出来る。	できないところは解答解説を参考にしたり、他者に聞くなどして試行錯誤しながら解くことが出来る。
	C する	類題の解答解説を参考にしながら解くことが出来る。	問題文の意味を理解し、解答解説を参考にしながら、回答を作成することが出来る。	あたえられた課題に取り組み、期限内に提出物を提出することが出来る。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数学 I ・ 数と式 ・ 2次関数
2 学期	数学 I ・ 図形と計量 数学A ・ 場合の数と確率
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実教出版『短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学 I・A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	キャリア 保育 看護
目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ、内容を的確に理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	基本的な英文を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解できる。	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	できないところを人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	C する	モデル文を真似て読んだり書いたりすることができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業に臨むための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・プレゼンテーション	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson 8 Nudge Lesson 9 The Father of Braille Blocks
2 学期	Lesson 10 Do We Need That? Lesson 11 The Vancouver Asahi Lesson 12 From Small Companies to the World
3 学期	

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication II 『教研出版』 COMET ベーシックノート COMET 基本文法定着ドリル 必修英単語 LEAP BASIC
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	ネットワーク活用	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	キャリア
目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	相手に分かりやすく伝えるための資料作成や表現方法を身につけさせ効果的な発表ができる。	使用するソフトウェアの操作方法を習得し、適切な文書や作品をWebページデザインとして作成することができる。	効果的な広報活動に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。
	A わかる	Webデザインに必要な知識を理解できる。	情報モラルやマナーを守る必要性を理解することができる。	電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を学ぼうとしている。
	B できる	ネットワーク活用に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	ネットワーク活用について関心を持って取り組むことができる。
	C する	ネットワーク活用に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報通信技術の進歩とビジネス 情報コンテンツの制作 企業情報の発信とWebデザイン
2 学期	インターネットと情報セキュリティ 電子商取引とビジネス
3 学期	

何で学ぶか(教材)

教科書 ネットワーク活用 実教出版

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動 PC実習

科目名	商品開発と流通	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース キャリア
目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	商品を企画・開発し、流通させるために必要な技術、商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け、活用することができるか。	商品開発に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断できる。	商品活動に関する諸活動を主体的に考える、実践的な態度を身に付けているか。
	A わかる	顧客満足を実現することの重要性について理解しているか。	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深めているか。	消費者の視点に立った商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。
	B できる	商品開発に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	商品開発について関心を持って取り組むことができる。
	C する	商品開発に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	商品の開発 商品の販売
2 学 期	商品の販売 商品と流通の関わる新たな展開
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

教科書 商品開発と流通 実教出版 問題集 商品開発と流通 実教出版
--

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動

科目名	ビジネスマナー	授業時数	週2単位	3学年
		コース・学年	研志 コース	キャリア探究
目標	秘書検定実問題集などを用いながら、実社会で活用できる表現力、一般常識の向上を図り、自身のキャリアプランの形成の一助とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	秘書的な仕事やビジネスにおけるマナーについて実務に即して体系的・系統的に理解し、技術を発揮できる。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、創造的に解決することができる。	社会に出るうえで何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	ビジネス社会の常識やビジネスマナーの基本について理解することができる。	秘書検定で問われる二様について、正しい解説をすることができる。	ビジネスについて関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	組織の一員として身に付けておきたい態度や心構えがあることを知っている。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	会社や組織の仕組みを理解することができる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	ノート、ロールプレイングでの体験学習	ノート、ロールプレイングでの体験学習、グループ活動	ノート、ロールプレイングでの体験学習、グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	秘書検定3級実問題集
2 学期	秘書検定3級実問題集
3 学期	

何で学ぶか(教材)

秘書検定3級実問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義, 問題演習

科目名	一般教養演習	授業時数	週2単位	3学年
		コース・学年	研志 コース	キャリア探究
目標	就職試験に向けてSPI問題などを用いながら、実社会で活用できる表現力、一般常識の向上を図り、自身のキャリアプランの形成の一助とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	現代社会のできごとを多角的・公正に理解・判断し、その課題を解決するための総合的な力を身に付けている。	一般的な教養問題や時事問題に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	現代社会の課題を解決するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	時事問題を読み解き、活用する力を身に付けている。	現代社会についての思考を深め、事象を複合的に考察することができる。	日々変化する現代社会について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	一般的な教養問題を解くことができる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	5教科の重要語句や公式が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	ノート, 過去問題の正答率	ノート, グループ活動	ノート, グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	高校生の一般常識+SPI問題集
2 学期	高校生の一般常識+SPI問題集 面接練習 就職試験対策
3 学期	

何で学ぶか(教材)

高校生の一般常識+SPI問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義, 問題演習, 就職試験の模擬試験

科目名	簡易ソフト	授業時数	週2単位	3学年
		コース・学年	研志 コース	キャリア探究
目標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	企業における適切な文書処理について理解するとともに、関連する技術を見いだしている。	文書処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだしている。	企業における文書処理について自ら学び、適切な文書処理に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	A わかる	企業における適切な文書処理について理解するとともに、関連する技術を説明できる程度に確実に身に付けている。	文書処理の意義と課題について理解するとともに、企業活動との関連について説明できる程度に理解している。	企業における文書処理について自ら積極的に学び、適切な文書処理に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
	B できる	企業における適切な文書処理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	文書処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて理解している。	企業における文書処理について自ら学び、適切な文書処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C する	教科書によって、企業における適切な文書処理についてまとめ、関連する技術の習得に努めている。	教科書によって、文書処理の意義と課題についてまとめ、理解に努めている。	企業における文書処理について自ら学ぼうとし、適切な文書処理に主体的かつ協働的に取り組む態度の習得に努めている。
評価方法	実技テスト 小テスト	実技テスト 小テスト 提出物	授業 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	文書ソフトの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得する。
2 学期	各自の学習進度に応じて、全国商業高等学校協会のビジネス文書検定1級～3級を受験。
3 学期	

何で学ぶか(教材)

プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義(PC1人1台)、グループワーク、ペアワーク、課題

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	キャリア探究

目標 自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、社会で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を身につける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して地域社会の諸問題について考察しようとする。
価 A わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して地域社会の諸問題について考察しようとする。
基 B できる	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
準 C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は1分、2分）、新聞記事を使った小論文、テーマ型・課題文型小論文、課題文要約、自己PR、志望理由書の準備、面接準備
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型・課題文型小論文、出前授業について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ、専門学校の過去問題、面接準備、研志コース発表の準備（協働作業）
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材、日本経済新聞をはじめとした記事、専門学校・大学の過去問題、専門学校の出前授業、職業体験、講演・講座

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演

科目名	実践英語	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 保・看・キャ
目標	長文や文法、リスニングの問題演習により思考力、判断力を向上させることで学力の定着を図り問題解決力を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	問題演習において、単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	問題演習において、正しく解答することができる。	問題を積極的に解き、復習し、読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において、語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において、根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく、積極的に復習をし、弱点を補強しようと努めている。
	B できる	単語や語句の力が向上している。	演習問題において、自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において、自分で考え、根拠に基づいて解答しようと努めている。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	文の種類、文型、時制、助動詞、受動態
2 学期	不定詞、動名詞、分詞、比較、関係代名詞、接続詞、仮定法
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集 UNITE STAGE 1 (数研出版)
英検過去問 他

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習
ペア学習・グループ学習
講義による解説

科目名	政治・経済	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志	コース 探究 (キャリア)
目標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の政治・経済的課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の政治・経済的課題について、考察し、主体的に解決しようとするすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 提出物 提出物 	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1部第1編現代日本の政治 第1部第2編現代日本の経済 第1部第3編現代日本における諸課題の研究
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第1編現代の国際政治 第2部第2編現代の国際経済 第2部第3編国際社会における諸課題の研究
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実教出版『最新政治・経済 実教出版『最新政治・経済 演習ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション

科目名	フードデザイン	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 保育・幼児
目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し、実践することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、考えをまとめて判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけ、主体的に行動することができる。
	A わかる	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。	自分自身の食生活や食環境の現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
	B できる	食事の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を見つけ、判断ができる。	食の役割に関心を持ち、作る・食べる計画をたてることのできる。
	C する	食事の役割と意義について基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 食育 フードデザイン実習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

フードデザイン (実教出版) フードデザイン学習ノート (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習

科目名	保育実践	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志 コース	幼児・保育
目標	①保育実習で子どもや保育について実地で学び、子どもと適切に関わる力を身に付ける。 ②こどもの発達の特徴を理解し、生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ③子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもにかかわる意欲や能力、実践的な程度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	子どもの発達段階に応じた遊びの種類や特性を知り、保育者として年齢に合わせた適切な関わりを身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深めることができる。生涯にわたって適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	他者と、異なる世代との関わりを主体的に持ち、共に生きる力を育てる実践的な態度を身につけ、乳幼児の健全な成長に関心を持っている。
	A わかる	保育士、幼稚園教諭など保育に関する職業観について深く学び、保育者としての振る舞いを身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	異なる世代との関わりを主体的に持ち、共に生きる力を育てる態度を身につけている。
	B できる	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得し、自立して生活する能力を身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を探ることができる。	異なる世代との関わりを主体的に持つ態度を身につけている。
	C する	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得している。	乳幼児の保育について課題を見いだす努力ができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 課題研究 定期テスト	授業中の行動 課題研究総合発表会 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	保育者の役割 保育とは 保育士、幼稚園教諭の仕事 遊びと保育
2 学期	子どもの遊び 作品制作 児童文化財 総合発表会
3 学期	

何で学ぶか(教材)

プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	国語探究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTPOに応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	入試レベルの問題演習において、漢字や語彙が正しく解答できる。	入試レベルの問題の演習において、正しく解答することができる。	入試レベルの問題演習を積極的に解き、復習し、読解力を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において、漢字や語彙の問題が正しく解答できる。	問題演習において、根拠をもって正しく解答できる。	問題演習において、時間配分を考えながら自分なりに根拠をもって解答を出している。
	B できる	漢字や語彙の力が向上している。	問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出すことができる。	問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出している。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
2 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
3 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題

何で学ぶか(教材)

『新成 現代文』 (尚文出版) 『新版 高校漢字必携』 (第一学習社)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 講義による解説

科目名	国語演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTPOに応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	入試レベルの問題演習において、漢字や語彙が正しく解答できる。	入試レベルの問題の演習において、正しく解答することができる。	入試レベルの問題演習を積極的に解き、復習し、読解力を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において、漢字や語彙の問題が正しく解答できる。	問題演習において、根拠をもって正しく解答できる。	問題演習において、時間配分を考えながら自分なりに根拠をもって解答を出している。
	B できる	漢字や語彙の力が向上している。	問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出すことができる。	問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出している。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
2 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
3 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題

何で学ぶか(教材)

『新成 現代文』 (尚文出版) 『新版 高校漢字必携』 (第一学習社)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 講義による解説

科目名	公民	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志コース	探究 (保育)
目標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	S 使える	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の政治・経済的課題について、考察し、主体的に解決しようとするすることができる
B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 提出物 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 公共の扉 第2編 第1章 法的な主体となる私たち
2 学期	第2編 第2章 政治的な主体となる私たち 第2編 第3章 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりとなる私たち
3 学期	

何で学ぶか(教材)

高等学校新公共 (第一) 高等学校新公共準拠ワーク (第一) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション

科目名	音楽演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース <small>保育・幼児教育系進学</small>
目標	保育・幼児教育で取り扱う教材や、それらを展開するために必要なピアノ演奏技術を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	大譜表の読み方を理解し、鍵盤を見なくても正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポとアーティキュレーションでハーモニーを感じながら鍵盤を見なくても演奏することができる。	目標を設定し、到達できるまで繰り返し練習することができる。
価 A わかる	アーティキュレーションを示す記号等を理解し、正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポとアーティキュレーションで演奏することができる。	練習したことを他と聴きあい、互いに評価ができる。
基 B できる	楽譜の読み方を理解し、正しい姿勢と運指で両手の演奏することができる。	曲想に合わせたテンポで演奏することができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習することができる。
準 C する	正しい姿勢と運指で片手ずつの演奏することができる。	メトロノームに合わせ、正しいリズムで演奏することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト	授業 実技テスト	授業 実技テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	全訳バイエルピアノ教本 P42～46
2 学期	全訳バイエルピアノ教本 P47～53
3 学期	全訳バイエルピアノ教本 P54～56

何で学ぶか(教材)

全訳バイエルピアノ教本 (全音楽譜出版社)

どのように学ぶか(授業方法など)

個人・ペア練習 1ページごとにチェック

科目名	美術演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース <small>保育・幼児教育系進学</small>
目標	①美術の学習内容に関心をもち、制作や鑑賞へのあこがれや期待を持つ。 ②幼児教育において必要とされる、基本的な図画・工作の技術を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 標準	S 使える 実践するために必要な知識を身につける	発達段階に応じた制作活動や技法を適切に判断できる	それぞれの技法の特徴や対象となる年齢を考える
	A わかる 幼児教育の中での芸術活動の意義と役割を理解する	幼児教育の諸活動において様々な技法を用いて表現できる	発達段階を意識し、様々な技法を用いて制作することができる
	B できる 目的に応じた道具や技術を選択する	様々な技法を用いて基礎的な制作をする	様々な技法について学ぼうとする
	C する 保育の現場で必要とされる工作物などの姿や用語を理解する	自分なりの工夫や表現を考えることができる	将来を見据えた能動的な学習態度を持つ
評価方法	授業課題の提出	授業課題の提出	授業課題の提出

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5月 誕生日掲示の製作 6月 折り紙を用いた制作 7, 8月 似顔絵の制作
2 学期	9月 オリジナル季節ポスターの作成 10, 11月 紙芝居の制作 12月 粘土の制作
3 学期	

何で学ぶか(教材)

折り紙, 画用紙, 色鉛筆 クレヨン, 粘土 等

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・実習

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護医療福祉

目 自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職
標 で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を身につける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使 え る	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
価 A わ か る	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
基 B で き る	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
準 C す る	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は1分、2分）、新聞記事を使った小論文、テーマ型・課題文型小論文、課題文要約、自己PR、志望理由書の準備、面接準備
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型・課題文型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事・出前授業について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ、上級学校の過去問題、面接準備、研志コース発表の準備（協働作業）
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材、日本経済新聞をはじめとした記事、医療と安全管理総集版（ニホンミック）、専門学校・大学の過去問題、専門学校の出前授業、職業体験、講演・講座
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演、各種医療体験

科目名	看護医療研究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 看護医療福祉
目標	看護医療福祉の各分野の基礎的事項を横断的に理解し、チーム医療に対する基本的な考え方を身に付け、また他者を思いやり尊重する態度を養う。医療福祉従事者としての心構えを身に付けると同時に、必要とされる資質や知識・技術を身に付け高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	看護・医療・福祉の各分野に関する知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解し日常生活に応用を図ることが出来る。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を理解し、習得した基礎的な技術の他者への応用を図ることが出来る。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し率先して能動的に取り組むことができる。
	A わかる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解している。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を考え理解し、基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し意欲的に取り組むことができる。
	B できる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割の理解に努められる。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を考え、それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決に意欲的に取り組むことができる。
	C する	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を理解し、深めようとする。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持つことができる。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	社会福祉協議会との連携授業 【地域包括ケアシステム・老年体験等】 専門学校出前講座(岡山医療福祉専門学校) 専門学校出前講座(洛和会京都厚生学校)
2 学期	鳥取看護大学連携授業 認知症サポーター養成講座 医療従事者による講和 看護医療福祉時事研究 I
3 学期	受験指導

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	看護基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 看護医療福祉
目標	医療看護を取り巻く現状や基礎的知識・技術を学び、医療従事者を目指すうえで必要な資質の体得と向上を図り、進学への動機づけにつなげる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 標準	S 使える	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	A わかる	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現することができる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	B できる	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断できる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むことができる。
	C する	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現しようとしている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 看護師に必要な資質 医療看護を取り巻く社会背景 理学療法士について
2 学期	看護と倫理 看護と日常生活援助 作業療法士について 対象別看護
3 学期	受験指導

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	フードデザイン	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護医療
目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し、実践することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、考えをまとめて判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけ、主体的に行動することができる。
基 準	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。	自分自身の食生活や食環境の現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
	食事の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を見つけ、判断ができる。	食の役割に関心を持ち、作る・食べる計画をたてることのできる。
	食事の役割と意義について基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 食育 フードデザイン実習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

フードデザイン (実教出版) フードデザイン学習ノート (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習

科目名	国語教養	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看医福
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTPOに応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	入試レベルの問題演習において、漢字や語彙が正しく解答できる。	入試レベルの問題の演習において、正しく解答することができる。	入試レベルの問題演習を積極的に解き、復習し、読解力を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において、漢字や語彙の問題が正しく解答できる。	問題演習において、根拠をもって正しく解答できる。	問題演習において、時間配分を考えながら自分なりに根拠をもって解答を出している。
	B できる	漢字や語彙の力が向上している。	問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出すことができる。	問題演習において、自分なりに根拠をもって解答を出している。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	定期テスト 小テスト 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
2 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
3 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題

何で学ぶか(教材)

『新成 現代文』 (尚文出版) 『新版 高校漢字必携』 (第一学習社)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 講義による解説

科目名	政治・経済	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 探究(看護・文芸)
目標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の政治・経済的課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の政治・経済的課題について、考察し、主体的に解決しようとするすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 提出物 提出物 	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1部第1編現代日本の政治 第1部第2編現代日本の経済 第1部第3編現代日本における諸課題の研究
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第1編現代の国際政治 第2部第2編現代の国際経済 第2部第3編国際社会における諸課題の研究
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実教出版『最新政治・経済』 実教出版『最新政治・経済 演習ノート』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション

科目名	保育基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	医療・看護
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使 え る	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し、発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだし、発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ、主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A わ か る	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだし、表現方法を身につけている。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B で き る	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものに関する基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる意欲を身につけている。
	C す る	作品作りや実習の基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	子どもの保育 (発達と乳幼児期の意義・発達と保育環境・児童観と発達観)
2 学 期	作品制作 子どもの発達 (子どもの発育・神殿の精神発達・人間関係の発達)
3 学 期	作品制作 子どもの生活 (生活と養護・子どもの遊び)

何で学ぶか(教材)

保育基礎 (教育図書) 学習ノート プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	保育基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	医療・看護
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使 え る	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し、発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだし、発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ、主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A わ か る	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだし、表現方法を身につけている。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B で き る	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものに関する基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる意欲を身につけている。
	C す る	作品作りや実習の基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	子どもの保育 (発達と乳幼児期の意義・発達と保育環境・児童観と発達観)
2 学 期	作品制作 子どもの発達 (子どもの発育・神殿の精神発達・人間関係の発達)
3 学 期	作品制作 子どもの生活 (生活と養護・子どもの遊び)

何で学ぶか(教材)

保育基礎 (教育図書) 学習ノート プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	体育	授業時数	週	2	単位	3	学年
		コース・学年	研志	コース	キャリア探究・公務員		
目標 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子をを整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。							

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
価	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	B できる 基礎練習を正しくおこなひ、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バasketボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	体育	授業時数	週	2	単位	3	学年
		コース・学年	研志	コース	看護医療福祉系進学		
目標 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子をを整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。							

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするができる。
価	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	B できる 基礎練習を正しくおこなひ、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学 期	バレーボール ソフトボール サッカー バasketボール
3 学 期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
